

マレー語の再帰表現：自分、自身、自分自身

野元 裕樹

東京外国語大学、nomoto@tufs.ac.jp

東京外国語大学国際日本研究センター「外国語と日本語との対照言語学的研究」第12回研究会、2014年3月8日

1 はじめに

きっかけ

長距離再帰形 (long-distance reflexive) の異なる人称による阻止効果に関する北京語と日本語の違い：北京語の *ziji* (自己)、日本語の「自分」は、同一節内の名詞句だけでなく、その外の名詞句も先行詞とすることが可能 (長距離照応)。

- (1) **Zhangsan**_i zhidao **Lisi**_j dui **ziji**_{i/j} mei xinxin.
Zhangsan know Lisi to self not confidence
'**Zhangsan** knows that **Lisi** has no confidence in **him/himself**.'

(Pan 2001:280)

- (2) 健_i は直美_j が自分_{i/j} の写真を撮ったと言った。

北京語では、間に人称の異なる名詞句が介在すると、長距離照応が阻止される。

- (3) a. **Wo**_i juede **ni**_j dui **ziji**_{*i/j} mei xinxin.
I think you to self not confidence
'I think **you** have no confidence in **yourself/*me**.'
b. **Ni**_i juede **wo**_j dui **ziji**_{*i/j} mei xinxin ma?
you think I to self not confidence Q
'Do **you** think **I** have no confidence in **myself/*you**?'
c. **Zhangsan**_i juede **wo/ni**_j dui **ziji**_{*i/j} mei xinxin.
Zhangsan think I/you to self not confidence
'**Zhangsan** thinks **I/you** have no confidence in **myself/yourself/*him**.'

(Pan 2001:280)

- (4) (1): $\sqrt{3} - 3 - 3$
(3a): *1 - 2 - 1
(3b): *2 - 1 - 2
(3c): *3 - 1/2 - 3

一方、日本語では阻止効果は見られない。

- (5) 太郎／私／あなた_iは太郎／私／あなた_jが自分_{i/j}の写真を撮ったと言った。(すべての組み合わせで長距離照応が可能)

(Miyagawa 2010:50)

- (6) Miyagawa (2010) の仮説
北京語は、実は人称一致がすべての時制文で起こる、ロマンス諸語のような一致言語。日本語は、人称一致が「ましょう」などのモダリティ要素が生起する場合のみに限られる(例:(7))、談話階層(discourse-configurational)言語。

- (7) 私／*あなた／*山田先生が太郎に手紙を送りましょう。

(上田 2006)

では、マレー語は？

本発表の構成

- §2. マレー語の再帰形：これまでの研究。マレー語では長距離照応に対する阻止効果が見られない。それはマレー語の長距離照応形が特殊だから。
- §3. マレー語再帰表現の構成的分析。マレー語の長距離照応形を分解し、その他の再帰表現も視野に入れる。
- §4. 各再帰形の検討。個々再帰表現について、§3で提示した分析を元に、検討。
- §5. まとめ。

2 マレー語の再帰形：これまでの研究

長距離再帰形：diri + 代名詞

母語話者に対する聞き取り調査や自然談話で最も普通に出てくる、マレー語の「自分、oneself」は「diri + 代名詞」である。この形式は長距離照応を許す。

- (8) **Ali_i kata Siti_j mengambil gambar diri-nya_{i/j}.**
Ali say Siti take picture DIRI-3
「アリはシティが自分の写真を撮ったと言った。」

日本語同様、阻止効果は見られない。

- (9) **Ali_i kata saya mengambil gambar diri-nya_i.**¹
Ali say I take picture DIRI-3
「アリは私が自分の写真を撮ったと言った。」

¹Dirinya「自分」は同一節中の saya「私」を先行詞に取れない。これは、diriに付いている代名詞-nyaが3人称だから。I took a picture of ***himself/myself**.

マレー語には、日本語のようなモダリティ要素によって条件付けられた人称一致現象は存在しないようである。

では、マレー語は Miyagawa (2010) の仮説 (6) に対する反例？

そうではなさそう。マレー語の「diri + 代名詞」は類型論的に特殊。

(10) 長距離再帰形の類型論的特徴 (Cole et al. 2001; Cole and Hermon 1998, 2005)

- a. 単一形態素 (Pica 1986)
- b. c 統御、主語志向
- c. 阻止効果

(11) a. 主語以外の先行詞 (j: 主節の目的語、k: 談話中の人物)

Siti_i mengingatkan Mohamed_j yang saya tahu **diri-nya**_{i/j/k} se-orang

Siti remind Mohamed that I know DIRI-3 one-CLF

penjenayah.

criminal

‘Siti reminded Mohamed that I know he/she is a criminal.’

- b. c 統御しない先行詞 (j, k)

[Bapak Siti_j]_i tidak suka **diri-nya**_{i/j/k}.

father Siti not like DIRI-3

‘Siti’s father does not like her/himself/him.’

(Cole and Hermon 2005:631)

Cole and Hermon (1998, 2003, 2005) : マレー語 (シンガポール) の「diri + 代名詞」は長距離再帰形ではない。[α anaphor]/[α pronominal] の素性に関して未指定の形式²。

よって、日本語の「自分」や北京語の ziji ([+anaphor][−pronominal]) と同列に扱うべきでない。Miyagawa (2010) の仮説の反例にはならない (し、支持もしない)。

標準的な再帰形 : **diri + 代名詞 + sendiri**

マレー語の再帰形には他に、「diri + 代名詞 + sendiri」という形式も存在。この形式は通常、c 統御する局所的な先行詞を必要とする。標準的な再帰形と言える。

(12) a. [Ibu Siti_j]_i mengambil gambar **diri-nya sendiri**_{i/*j/*k}.

mother Siti take picture DIRI-3 own

「シティの母は自分自身の写真を撮った。」

- b. Ali_i kata Siti_j mengambil gambar **diri-nya sendiri**_{*i/j/*k}.

Ali say Siti take picture DIRI-3 own

「アリはシティが自分自身の写真を撮ったと言った。」

²Chomsky (1981) の名詞句の類型 :

	[+pronominal]	[−pronominal]
[+anaphor]	PRO	(非再帰) 代名詞
[−anaphor]	再帰代名詞、相互形	指示表現

表 1: 「diri + 代名詞」のパラダイム (Cole and Hermon 2005:629)

人称	単数	複数
1 人称	diri saya/diri-ku	diri kami/diri kita
2 人称	diri kamu/diri-mu	diri kamu/diri-mu
3 人称	diri-nya	diri mereka/diri-nya

表 2: 「diri + 代名詞 + sendiri」のパラダイム

人称	単数	複数
1 人称	diri saya sendiri/diri-ku sendiri	diri kami/diri kita sendiri
2 人称	diri kamu sendiri/diri-mu sendiri	diri kamu sendiri/diri-mu sendiri
3 人称	diri-nya sendiri	diri mereka sendiri/diri-nya sendiri

日本語で「diri + 代名詞 + sendiri」に対応するのは、アクセント核を付与する単位が1つの「自分自身」(じぶんじ | しん) または「代名詞 + 自身」(例: かのじょじ | しん) (cf. じぶん じ | しん、か | のじょ じ | しん)³。

- (13) a. [直美_jの母]_iは自分自身_{i/*j}の写真を撮った。
 b. 圭_iは直美_jが自分自身_{*i/j}の写真を撮ったと言った。⁴
- (14) a. [直美_jの母]_iは彼女自身_{i/*j}の写真を撮った。
 b. 圭_iは直美_jが彼女自身_{*i/j}の写真を撮ったと言った。

なぜ「diri + 代名詞」、「diri + 代名詞 + sendiri」はこのような性質を持つか?: Cole and Hermon (2005) の分析

「diri + 代名詞」、「diri + 代名詞 + sendiri」は、単一の語彙項目。束縛に関する性質は、語彙項目を構成する各形態素から構成的に得られるのではなく、語彙項目全体に由来。→ 再帰代名詞のパラダイム

ただし、sendiri は単独の副詞として「独力で、一人で」の意味で用いることもでき、それが偶然「diri + 代名詞」の後に生起することもある。これは「diri + 代名詞 + sendiri」のパラダイムに由来するものではない。

- (15) John fikir (yang) diri-nya sendiri akan pergi ke KL besok.
 John think that DIRI-3 alone will go to KL tomorrow
 'John thinks that he himself will go to KL tomorrow.'

(Cole and Hermon 2005:634)

³アクセント核を付与する単位が2つの場合は、それぞれ「自分」、「彼女」の強調形(三原 & 平岩 2006:77-78)。三原 & 平岩 (2006:77) は、アクセント核1つの「かのじょじ | しん」は容認されないとしている。しかし、私には容認可能。

⁴私の判断では、「直美が」が焦点になると(「他でもない直美が」)、「自分自身」が話者指示的(logophoric)になりやすくなる。その場合、「自分自身」は「圭」を自然に指せる。この解釈は、再帰代名詞の束縛変項(bind variable)としての解釈とは区別されるものである。(14b)についても同様。

Nomoto (2011) : マレーシアのマレー語について、Cole and Hermon の分析が当てはまる。再帰形が1つの語彙項目であるという分析も踏襲。

疑問点・問題点

- なぜ *sendiri* が付くと、長距離照応ができなくなるのか？
- マレー語には「*diri* + 代名詞」、「*diri* + 代名詞 + *sendiri*」の他にも再帰表現が存在する。これらはどうなる？
- 「*diri* + 代名詞」、「*diri* + 代名詞 + *sendiri*」の性質は、本当に構成的に導き出すことができないのか？

例(16)–(21)は(19b)以外、すべて言語図書館 (DBP; Dewan Bahasa dan Pustaka) のコーパスから。

(16) *diri*

- Itu penting, sebab dalam hidup ini [_{NP} keyakinan **diri**] adalah 50%
that important because in life this confidence DIRI be 50%
daripada kemenangan.
from victory
「人生では成功の50%は[自信]から来るんだから、それは大切なことだ。」
- Ketika itu bercempera askar Jepun [_{VP} menyelamatkan **diri**].
time that scattered soldier Japan save DIRI
「そのとき日本兵は散り散りになって[逃げた]。」(直訳: 自らを救った)
- Ahmad [...] terpaksa melumuri seluruh badan dengan lumpur hanyir
Ahmad have.to spread all body with mud fishy-smelling
dan [_{VP} mematikan **diri**] di pantai yang kotor bagi mengelak di-kesan
and kill DIRI at coast REL dirty for avoid PASS-trace
musuh.
enemy
「アフマッドは[...]敵に見つからないように、魚臭い泥を全身に塗って汚い海岸で[身を潜めてい]なければならなかった。」

(17) *diri* + 非代名詞⁵

- Segala kejadian biologikal dan fizikal ke atas [**diri** remaja itu] [...].
all incident biological and physical to top DIRI adolescent that
「思春期の子どもに起こるあらゆる生物学的、肉体的出来事は[...]。」
- Namun tidak ramai yang cuba memahami [**diri** Shahnnon] sebagai pengarang
however not many REL try understand DIRI Shahnnon as writer
sastera yang pragmatis.
literature REL pragmatic
「しかしながら、実際主義的な文学作家としてのシャーノン(その人)を理解しようとするものは多くない。」

- c. Aku masih sadar siapa [**diri** ini] dan siapa dia.
I still aware who DIRI this and who she
「僕は自らと彼女がどういう立場にあるか、まだわきまえていた。」

(18) diri + sendiri

- a. Kini, anda bukan sahaja makan untuk **diri sendiri**.
now you not only eat for DIRI own
「もうあなたは自分自身だけのために食べるのではないのです。」
- b. Sampai bila adik harus membohongi **diri sendiri** dan diri-nya?
until when younger.sibling should deceive DIRI own and DIRI-3
「いつまであなたは自分自身と彼に嘘をつき続けねばならないのですか?」

(19) diri + 非代名詞 + sendiri

- a. Apabila tersalah memilih teman, ia akan memberi kesan yang besar terhadap
when mistake choose friend it will give effect REL big towards
[**diri** remaja itu **sendiri**].
DIRI adolescent that own
「友人選びを誤れば、その思春期の子ども（の身）に対して大きな影響が及ぶでしょう。」 cf. (17a)
- b. Oh itu sebenarnya bergantung pada [**diri** individu itu **sendiri**].
oh that actually depend on DIRI individual that own
「ああ、それは実のところ、その個人（その人）次第だよ。」
(多言語話ことばコーパス (マレーシア語) : 30No#3-A306)

(20) (代) 名詞 + sendiri

- a. Ajar-lah anak mengemas barang permainan [mereka **sendiri**] selepas
teach-PART child tidy thing play their own after
bermain.
play
「子供に遊び終わったら自分のおもちゃを片付けるように教えましょう。」
- b. Ingat-lah bahawa perokok pasif atau orang yang menyedut asap
remember-PART that smoker passive or person REL inhale smoke

⁵ただし、次のような例は、diri の後に親族名称、固有名詞が続くものの、代名詞相当で用いられているのでパラダイムの範囲内。

- (i) a. Tidak semua yang bertuah seperti [**diri** adik-adik].
not all REL fortunate like DIRI younger.sibling-PL
「みんなが皆さんのように幸福というわけではないんですよ。」 (adik: 2 人称代名詞相当)
- b. Menurut teman Maya, si dia tu minat sangat kat Maya dan ingin mengenali [**diri**
according.to friend Maya Mr. he that interested very at Maya and want know DIRI
Maya] dengan lebih dekat.
Maya with more close
「マヤの友達によれば、その男の人はマヤにすごく興味があって、もっと親密な知り合いになりたがってるんだって。」 (Maya: 1 人称代名詞相当)

rokok lebih senang di-serang penyakit daripada [perokok itu **sendiri**].
 cigarette more easy PASS-attack disease from smoker that own
 「受動喫煙者、つまりタバコの煙を吸う人は喫煙者自身よりも病気に襲われやすいということを覚えておきましょう。」

(21) sendiri

- a. Daripada penulisan pelajar di atas, jelas bahawa pelajar tidak mempunyai
 from writing student at top clear that student not have
 idea **sendiri** [...].
 idea own
 「上の学生の手記からすると、学生が自分の考えを持っておらず[...]
 ことは明らかである。」
- b. Di samping itu, responden tidak pasti sama ada mereka memiliki sikap
 at side that respondent not certain whether they have attitude
 bangga terhadap bahasa **sendiri**.
 proud towards language own
 「さらに、回答者は自分の言語に誇りを持っているかどうか断言できずに
 いる。」

このような例は自然談話中ではごく普通に存在する。

これらの例では、「diri + 代名詞」、「diri + 代名詞 + sendiri」の構成要素がこれ以外の組み合わせで現れたり、非代名詞が関与する。よって、Cole and Hermon (2005) の代名詞のパラダイムとしての記述では捉えきれない。

それでは、「diri + 代名詞」、「diri + 代名詞 + sendiri」の性質を構成的に導き出し、さらに上の例もカバーできるような分析が可能ならば、そちらの方が経験的に望ましい。

次節ではそのような分析を提案する。

3 マレー語再帰表現の構成的分析

3.1 Diri

主張 1 diri は、所有者項を取る NP。その意味は、「～の身体的自己 (physical self)」⁶。ある人の身体的自己を構成する、その人の体は、その人によって譲渡不可能的に所有されている全体。よって、diri は所有者自身とほぼ同義になる⁷。

根拠 diri が、ある人の精神的自己 (mental self) に関連する語と対比されて用いられている例：

- (22) a. Saya terpaksa “meremajakan semula” **diri dan jiwa** saya.
 I have.to rejuvenate DIRI and soul my
 「私は自分の体と心を若返らせなければならなかった。」

⁶より厳密には、ある個体からその個体の身体的自己への関数。

⁷[[diri]] = $\lambda x.x$'s physical self $\approx \lambda x.x$'s x

- b. Untuk sementara waktu, Ade harap abang, cubalah fahami lagi siapa
for while time Ade hope brother try-PART understand more who
Ade ini, fahami **diri dan hati** Ade.
Ade this understand DIRI and heart Ade
「当面、私はあなたがこの私がどんな人間か、それから私の身と心を分か
ろうとしてくれるように願っています。」

(DBP Corpus)

同一の「自己」について、その物理的側面のみが変化する場合、それは *diri* の変化：

- (23) Ular itu telah kembali kepada **diri** asal-nya, se-orang putera raja.
snake that PRF return to DIRI original-3 one-CLF prince king
「その蛇は自分の元の姿である王子に戻った。」

(Si Bongsu dengan Kak Nam)

反例？ *diri* が身体的自己と精神的自己の双方を含めた上位概念を指している文章も。マレー語にはなかった概念（アラビア語の「自己」？）に対する訳語として最も近いものとして *diri* が選ばれた？

- (24) Islam membahagikan **diri** manusia kepada dua bahagian yang utama, iaitu **diri** yang zahir dan **diri** yang batin. **Diri** yang zahir terdiri daripada anggota-anggota yang dilihat, baik dengan pandangan mata kasar mahupun yang tersembunyi dalam tubuh, seperti otak, jantung, dan sebagainya. **Diri** yang batin pula terdiri daripada akal, hati, dan kalbu.
「イスラームでは、人間の自己は、外面的な自己と内面的な自己の2つ主要な部分に分けられる。外面的な自己は、肉眼で見えるものであるか、脳や心臓などの体の内部に隠れているものであるかに関わらず、見える部分から成り立つ。一方、内面的な自己は理性と心、精神から成り立つ。」

3.2 無形代名詞 *pro*

主張2 マレー語には未指定の代名詞 *pro* が存在する。この代名詞は英語の *one* に相当し、代名詞のパラダイムの1つ。

- (25) 照応表現における *pro* の生起
- a. *diri* の所有者項として
- (i) 単独で現れる *diri* (例:(16)) は実は *diri pro* で「*diri* + 代名詞」の一種
diri pro/saya/kita/kami/awak/-nya/mereka
‘one/my/our/our/your/him/their-self’
- b. *sendiri* 「独力で、一人で」とともに
- (i) 単独で現れる *sendiri* (例:(21)) は実は *pro sendiri* で「代名詞 + *sendiri*」(20a) の一種

表 3: マレー語の代名詞

人称	数	代名詞	英語 (属格形)
—	—	<i>pro</i>	one's
1	単数	saya, aku/-ku	my
1	包括	kita	our
1	除外	kami	our
2	—	awak, engkau, kamu/-mu	your
3	単数	dia/-nya, ia/-nya	his/her, its
3	複数	mereka (, -nya)	their

- pro/saya/kita/kami/awak/dia/mereka sendiri*
 ‘one’s/my/our/our/your/him/their own’
- (ii) *diri sendiri* (例:(18)) は実は *diri pro sendiri* で「*diri* + 代名詞 + *sendiri*」の一種
- diri pro/saya/kita/kami/awak/-nya/mereka sendiri*
 ‘one/my/our/our/your/him/their-self’

3.3 種々の照応表現の構成

非代名詞まで視野に入れると、種々の照応表現はその構成により以下のように整理できる。上で議論したすべての形式をカバー。

表 4: マレー語の照応表現の構成

	非焦点形	焦点形 (<i>sendiri</i>)
非強調形	(A) DP [_A DP] <i>pro/saya/Ali</i> ‘one’s/my/Ali’s’ 「{自分/私/アリ} の」	(C) DP <i>sendiri</i> [_C [_A DP] <i>sendiri</i>] <i>pro/saya/Ali sendiri</i> ‘one’s/my/Ali’s own’ 「{自分/私/アリ} 自ら」
強調形 (<i>diri</i>)	(B) <i>diri</i> DP [_B <i>diri</i> [_A DP]] <i>diri pro/saya/Ali</i> ‘one’s/my/Ali’s physical self’ 「{自分/私/アリ} 自身」	(D) <i>diri</i> DP <i>sendiri</i> [_D [_B <i>diri</i> [_A DP]] <i>sendiri</i>] <i>diri pro/saya/Ali sendiri</i> ‘one’s/my/Ali’s own physical self’ 「{自分/私/アリ} 自身自ら」

diri の付く形式を「強調形」と呼ぶのは、*diri* の意味「～の身体的自己」が「～」の部分とほぼ同義であるにも関わらず (3.1 節参照)、表現量が多いため。

sendiri の付く形式を「焦点形」と呼ぶのは、*sendiri* の意味が焦点に関与するから (Gil 2001)⁸。ある要素 X が焦点であるとき、X の代替値の集合が意味計算で言及される。例え

⁸Gil は、「焦点形」でなく conjunctive operator という別の名称で呼んでいる。

ば、「直美自らが来た」という表現の解釈では、{直美、直美の妹、直美の母、直美の父、...} という集合に対して、来た人たちの中で「直美」が中心的な存在であることを表す⁹。

対応する英訳、日本語訳は、マレー語の体系に合わせて付けた¹⁰。本発表の副題「自分、自身、自分自身」に係る部分だけ、抜き出すと表5のようになる。

表 5: マレー語から見た、日本語の「自分」を含む再帰形

	非焦点形	焦点形 (sendiri)
非強調形	(A) DP <i>pro</i> 「自分」	(C) DP sendiri <i>pro sendiri</i> 「自分自ら」
強調形 (diri)	(B) diri DP <i>diri pro</i> 「自分自身」	(D) diri DP sendiri <i>diri pro sendiri</i> 「自分自身自ら」

照応表現以外での **pro** の生起

(26) di-受動文 (Kartini and Nomoto 2012; Nomoto and Kartini forthcoming)

Surat itu sudah di-poskan *pro*.

letter that already PASS-post

「その手紙はもう投函された。」

(27) 口語における無形主語 (Nomoto and Shoho 2007)

Cakap Kelantan? Apa yang *pro* nak cakap?

speak Kelantan what REL want speak

「クランタン（方言）喋れって？何を喋ろうか？」

4 各再帰形の検討

4.1 diri DP (B. 強調形)

4.1.1 単独の diri

diri が単独で生起する場合、その意味は単純な再帰性というよりは、総称的なものとなる。名詞の補部として生起する場合と動詞の補部として生起する場合に分けて考える必要がある。

⁹ 「直美」以外は、直美と一緒に来たかもしれないし、来なかったかもしれない（「直美自らが父親に付き添われて来た」）。その意味で周辺的である。この分析は、König and Siemund (2000) の英語の *self*（古英語 *selfne*）の分析を日本語の「自ら」に応用したもの。

¹⁰ これは直訳なので、訳文にそのまま採用して常にうまくいくわけではない。

diri が名詞の補部となる場合 下の (28a) のように、総称的に解釈される。diri を含む名詞句全体の意味は、特殊化する。(28b) のように特定の個人と結びつく解釈では容認されない。

- (28) a. Siti tidak lalai menjaga kecantikan/maruah *diri*.
 Siti not careless keep beauty/dignity DIRI
 ‘Siti does not fail to take care of her beauty/dignity.’
- b. *Siti mengambil gambar *diri*.
 Siti take picture DIRI
 For: ‘Siti took a picture of herself.’

ごく僅かだが、ネット上で (28b) の gambar diri の使用例が見つかった。すべてインドネシア語。意味は、diri が特定の個人に結びつかない、「自撮り写真 (セルフイー)」という特殊な意味になる。

- (29) a. Saya hobi mengambil gambar **diri** atau foto narsis.
 I hobby take picture DIRI or photo narcissistic
 「私は趣味は自撮り、つまりナルシストな写真を撮ることなんです。」
 (<http://www.malang-post.com/ekonomibisnis/78359-latihan-senyum-sesuai-kebutuhan>, accessed 08/03/2014)
- b. Karena itu dia berharap kepada anggota-nya maupun masyarakat umumnya because that he hope to member-3 or community general tidak sembarangan mengambil gambar **diri** dari ponsel.
 not arbitrary take picture DIRI from cellphone
 「そのため、彼は (警察の) 職員と一般の人々に対して、むやみに携帯で自撮り写真を撮らないように望んでいる。」
 (<http://politik.rmol.co/read/2013/10/31/131468/Ini-Kata-Kapolri-Soal-Foto-Bugil-Anggotanya->, accessed 08/03/2014)

diri の総称的意味は、単独で生起するように見える diri が実は未指定の無形代名詞 pro を含む diri pro であることに由来する。

diri が動詞の補部となる場合 やはり diri は、総称的に解釈される。diri を含む動詞句全体の意味は、特殊化する。動詞句の表す行為は、本来的に自身に向けられる (self-directed) もの。他者に向けられる (other-directed) であることも可能だが、たまたま自身に向けられているような事態ではない。例えば、(30) の memukul diri は、単に自分をぶつことなく、宗教儀式など特定の状況で自分をぶつことを意味する。

- (30) Ali_i kata Siti_j memukul diri_{*i/j/*k}.¹¹
 Ali say Siti hit DIRI
 ‘Ali said Siti hit herself.’

¹¹私は、Nomoto (2011) で memukul diri を含む文を非文としている。しかし、それは誤った記述なので、撤回する。

diri を含む動詞句が本来的に自身に向けられる、特殊な行為を表すのは、diri が動詞に意味的に抱合されるためだと考えられる¹²。他動詞の後に単独の diri が伴う動詞句は、自動詞的な意味になる。

- (31) a. membunuh diri
kill DIRI
「自殺する」
b. melarikan/melepaskan diri
make.run/release DIRI
「逃げる」
c. melibatkan diri
involve DIRI
「関与する」
d. menyerahkan diri
yield DIRI
「降伏する」

(30) の diri が局所的な先行詞のみを許し、標準的な再帰形のように振舞うのは diri が動詞に抱合されていることによる（注 12 参照）。

統語的には、Chung (1976) がインドネシア語の単独で生起する diri について、動詞との間に他の要素が介在できないことを根拠に、動詞に付加する接語であると分析している。

- (32) a. Apakah dia membunuh **diri** [di kebun]?
Q he kill DIRI at garden
‘Did he kill himself in the garden?’
b. *Apakah dia membunuh [di kebun] **diri**?
Q he kill at garden DIRI

(Chung 1976:44)

4.1.2 diri + (代) 名詞

この形式は、(代) 名詞の強調形。よって、基本的振舞いは(代) 名詞と変らない。(代) 名詞は統語上、所有者項であるので、所有代名詞の振舞い。代名詞の場合、長距離照応が可能である他、同一節の主語も先行詞に取れる¹³。

- (33) a. Ali_i kata Siti_j selalu memuji [diri-nya]_{i/j/k}.
Ali say Siti always praise DIRI-3
‘Ali says Siti always praises him/her/herself.’
b. Ali_i kata Siti_j selalu memuji [anak lelaki-nya]_{i/j/k}]_β.
Ali say Siti always praise child male-3
‘Ali says Siti always praises his/her son.’

¹² $\llbracket \text{memukul diri pro} \rrbracket = \lambda x.\text{hit}(x, y) \wedge \text{one's physical self}(y)$

¹³ 厳密には、先行詞と必要とするのは代名詞。だが、「diri + 代名詞」は代名詞とほぼ同義であるので (§3.1 参照)、名詞句全体が代名詞とほぼ同じ指標を持つことになる： $[\text{diri-nya}_\alpha]_{\alpha'}$ 。

4.2 DP sendiri (C. 焦点・非強調形) および diri DP sendiri (D. 焦点・強調形)

第2節で見たように、この形式は標準的な再帰形の振舞いを示す。つまり、局所的な先行詞は取れるが、長距離照応は無理。

- (34) a. Ali_i kata Siti_j mengambil gambar {sendiri_{*i/j/*k} / -nya sendiri_{*i/j/*k}}.
 Ali say Siti take picture own 3 own
 ‘Ali said Siti took a picture of herself.’ [sendiri = pro sendiri]
- b. Ali_i kata Siti_j mengambil gambar {diri sendiri_{*i/j/*k} / diri-nya sendiri_{*i/j/*k}}.
 Ali say Siti take picture DIRI own DIRI-3 own
 ‘Ali said Siti took a picture of herself.’ [diri sendiri = diri pro sendiri]
- c. Ali_i kata Siti_j selalu memuji {diri sendiri_{*i/j/*k} / diri-nya sendiri_{*i/j/*k}}.
 Ali say Siti always praise DIRI own DIRI-3 own
 ‘Ali says Siti always praises herself.’ [diri sendiri = diri pro sendiri]

sendiri が加わると局所的な先行詞が義務的になるので、局所性は再帰表現全体に帰するのではなく、sendiri のみから生じるはず。確かに、sendiri は先行詞に局所的な主語を要求する (Alsagoff 1992)。

- (35) Mariam_i kata bahawa Ali_j menjual kereta sendiri_{*i/j}.
 Mariam say that Ali sell car own
 ‘Mariam said that Ali sold *her/his car.’

(Alsagoff 1992:41)

反例? Kroeger (forthcoming) は、「diri + 代名詞 + sendiri」が主語位置でも生起可能であること指摘。

- (36) Kalau **diri-nya sendiri** tidak pandai di-hormati apatah diri orang lain!
 if DIRI-3 own not know.how PASS-respect what DIRI person other
 ‘If one does not know how to respect one’s own self, what more other people?’ (lit: ‘If one’s own self is not able to be respected, what more other people?’)

(<http://bersahajaa.blogspot.com/2012/06/pedihnya-air-muka-nizar-jamaluddin.html>, cited in Kroeger (forthcoming))

本発表の分析が正しいとすれば、これは sendiri の性質による。sendiri が主語位置に生起する場合については言及されることが少ない。今後の課題である。

5 まとめ

- 本発表では、マレー語の再帰表現について、表現全体を1つの語彙項目として扱うのではなく、各構成要素の組み合わせとして分析することを提案した。構成的分析

は、マレー語に存在する、さまざまな再帰表現を扱うことができ、経験的により望ましい。

- マドゥーラ語などマレー語と関連する言語でも、複数の互いに類似した、複数の再帰表現が存在する (Gil 2001; Paul 2004; Davies 2008; Kartono 2013)。本発表での分析は、そのような言語にも応用できるはずである。それにより、関連言語間での変異についても、より体系的な知見が得られることが期待される。
- 日本語との対照という面では、マレー語の再帰表現との対応からまとめた、表5が示すように、マレー語と似た構成的な側面を持つ。マレー語同様、英語より再帰に関わる表現が豊かであると言える。

参考文献

- Alsagoff, Lubna. 1992. *Topic in Malay: The Other Subject*. Doctoral Dissertation, Stanford University.
- Chomsky, Noam. 1981. *Lectures on Government and Binding*. Dordrecht: Foris.
- Chung, Sandra. 1976. An object-creating rule in bahasa Indonesia. *Linguistic Inquiry* 7:41–87.
- Cole, Peter, and Gabriella Hermon. 1998. Long distance reflexives in Singapore Malay: An apparent typological anomaly. *Linguistic Typology* 2:57–77.
- Cole, Peter, and Gabriella Hermon. 2003. Malay reflexives: An apparent exceptionality. In *Cakrawala Baru: Liber Amicorum untuk Prof. Soenjono Dardjowidjojo, Ph.D.*, ed. Katharina Endriati Skamto, 31–54. Jakarta: Yayasan Obor Indonesia.
- Cole, Peter, and Gabriella Hermon. 2005. The typology of Malay reflexives. *Lingua* 115:627–644.
- Cole, Peter, Gabriella Hermon, and C.-T. James Huang. 2001. Long-distance reflexives: The states of the art. In *Long-Distance Reflexives*, ed. Peter Cole, Gabriella Hermon, and C.-T. James Huang, volume 33 of *Syntax and Semantics*, xiii–xlvi. San Diego: Academic Press.
- Davies, William D. 2008. Madurese reflexives with reference to Malay/Indonesian. *Lingua* 118:1603–1616.
- Gil, David. 2001. Reflexive anaphor or conjunctive operator: Riau Indonesian *sendiri*. In *Long-Distance Reflexives*, ed. Peter Cole, Gabriella Hermon, and C.-T. James Huang, volume 33 of *Syntax and Semantics*, 83–118. San Diego: Academic Press.
- Kartini Abd. Wahab, and Hiroki Nomoto. 2012. Passives without ‘by’ in Malay. Paper presented at the 19th Meeting of the Austronesian Formal Linguistics Association (AFLA). URL <http://www.tufts.ac.jp/ts/personal/nomoto/afla19-handout.pdf>.
- Kartono, Bambang. 2013. A puzzle in binding: Half reflexives and locally bound pronouns. A comparative study of anaphoric systems in Indonesian, Javanese, Palembangnese, City Jambi and Village Jambi. Master’s thesis, Utrecht University. URL http://dspace.library.uu.nl/bitstream/handle/1874/280549/Thesis_Kartono.pdf.

- König, Ekkehard, and Peter Siemund. 2000. Intensifiers and reflexives. In *Reflexives: Forms and Functions*, ed. Zygmunt Frajzyngier and Traci S. Curl, 41–74. Amsterdam: John Benjamins.
- Kroeger, Paul. forthcoming. Symmetric voice in Malay/Indonesian: Assessing the evidence. In *Empirical Studies in Malay*, ed. Siaw-Fong Chung and Hiroki Nomoto, volume 60 of *NUSA*. Jakarta and Tokyo: Universitas Katolik Indonesia Atma Jaya and Tokyo University of Foreign Studies.
- 三原健一、平岩健. 2006. 『新日本語の統語構造：ミニマリストプログラムとその応用』東京: 松柏社.
- Miyagawa, Shigeru. 2010. *Why Agree? Why Move?: Unifying Agreement-Based and Discourse-Configurational Languages*. Cambridge, MA: MIT Press.
- Nomoto, Hiroki. 2011. Teori tambatan dalam bahasa Melayu. *Toukyou Gaidai Tounan'ajagaku* 16:1–16. URL <http://www.tufts.ac.jp/ts/personal/nomoto/TeoriTambatanBM.pdf>.
- Nomoto, Hiroki, and Kartini Abd. Wahab. forthcoming. On the person restriction on *di-* passive agents in Malay. In *Empirical Studies in Malay*, ed. Siaw-Fong Chung and Hiroki Nomoto, volume 60 of *NUSA*. Jakarta and Tokyo: Universitas Katolik Indonesia Atma Jaya and Tokyo University of Foreign Studies.
- Nomoto, Hiroki, and Isamu Shoho. 2007. Voice in relative clauses in Malay: A comparison of written and spoken language. In *Corpus-Based Perspectives in Linguistics*, ed. Yuji Kawaguchi, Toshihiro Takagaki, Nobuo Tomimori, and Yoichiro Tsuruga, volume 6 of *Usage-Based Linguistic Informatics*, 353–370. Amsterdam: John Benjamins.
- Pan, Haihua. 2001. Why the blocking effect? In *Long-Distance Reflexives*, ed. Peter Cole, Gabriella Hermon, and C.-T. James Huang, volume 33 of *Syntax and Semantics*, 279–316. San Diego: Academic Press.
- Paul, Ileana. 2004. NP versus DP reflexives: Evidence from Malagasy. *Oceanic Linguistics* 43:32–48.
- Pica, Pierre. 1986. On the nature of the reflexivization cycle. In *Proceedings of the North East Linguistic Society 17*, volume 2, 483–500. GLSA, University of Massachusetts, Amherst. URL <http://halshs.archives-ouvertes.fr/docs/00/20/76/22/PDF/PicaNels17.pdf>.
- 上田由紀子. 2006. 「人称制限と統語構造」 *Scientific Approaches to Language* 5:161–180.